

## 第1章 イギリス

### 第1節 能力評価制度の概要

#### 1. 制度概要

##### (1) 資格制度の新体制

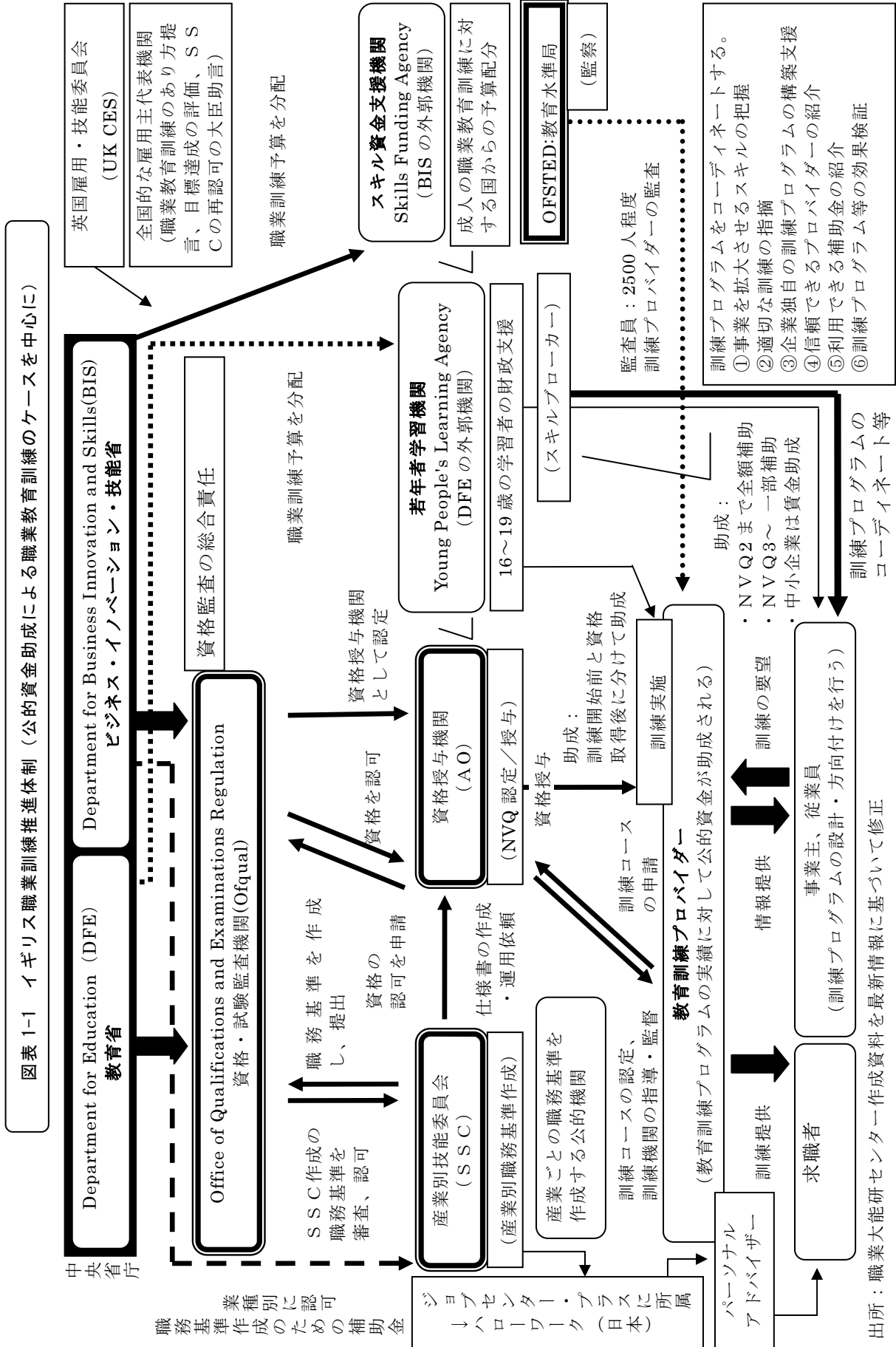
イギリスの職業訓練政策はビジネス・イノベーション・技能省 (Department for Business Innovation and Skills: BIS) によって決定され、実際の訓練、評価の運営管理は BIS の管轄外である政府機関の資格・試験監査機関 (Office of Qualifications and Examinations Regulation: Ofqual) が総合的な責任を持つ。図表 1-1 に見るように、イギリスの職業資格制度は非常に多くの関連組織が詳細に定義された責任範囲を持って活動する体制になっており、政府の技能政策の変化に対応して随時改正される。

資格制度に関連する近年のもっとも大きな体制改革は、学校教育及び職業資格の開発と管理全体に責任を持っていた資格・カリキュラム総局 (Qualifications and Curriculum Authority: QCA) が開発部門 (Qualifications and Curriculum Development Agency: QCDA)<sup>1</sup>と監査部門 (Office of Qualifications and Examinations Regulation: Ofqual) に分割されたことである。これは職業技能開発に責任を持つ継続教育が教育省から、主に産業省を引き継ぐ DIUS (BIS の前身) に管轄が移ったことと関連している。従来職業訓練とは特定の職業に関する一般的な知識と基礎技能を習得させる教育的な性格の濃い制度であった。それがこの体制改革によって能力開発は教育の管轄を離れて産業政策の一環として位置づけられることになった。新体制は、職業訓練とは経済成長戦略の一環であり、事業主の需要にあった技能を持つ労働者の養成方法を産業界自体が責任を持って開発していくべきであるという政府の方針を明確に打ち出したものである。この結果、職業資格の開発は産業別委員会 (Sector Skills Councils: SSC) とその管理機関である英国雇用技能委員会 (UK Commission for Employment and Skills: UKCES) 及び資格授与機関 (Awarding Organisations) にほぼ全面的に責任が移行して現在に至っている。

##### (2) 資格評価制度関係組織(概要)

イギリスの能力評価制度は資格の作成から授与に至るまでの一貫した制度の一部であり、その理解には職業訓練制度の全体を知ることが必要である。図表 1-1 はイギリスの資格制度の中心である Ofqual 認可資格の推進体制を説明したものである。

<sup>1</sup> QCDA は 2012 年に正式に閉鎖される予定であり、学校教育関係の業務は 2011 年 11 月現在ほぼ全て教育省に移っている。



数多くある関係組織の中でも能力評価に特に関連の深い機関は資格・試験監査機関（Office of Qualifications and Examinations Regulation: Ofqual）、産業別技能委員会（Sector Skills Councils: SSC）、資格授与機関（Awarding Organisations: AO）、訓練評価センター（Training and Assessment Centre）の4機関である。なお資格によっては産業別委員会の水準に基づかないものもある。

一つの資格が開発されて訓練生に授与されるまでの過程でこれらの機関がどのような役割を果たすかをごく簡略化して示すと次のようになる。

- ・産業別技能委員会がそれぞれの産業分野で業務遂行に必要な知識と技能を職務基準として設定する。
- ・この基準に基づいて資格授与機関（例：City & Guild）が資格構造（必要な技能をレベルとして構成）と評価システム（技能の取得度判定方法）等資格の「内容」を構成し、例えば「NVQ 車両部品操作レベル3」としてOfqualに提出し審査を受ける。
- ・資格授与機関は、この業務を行うためにOfqualに資格授与機関としての認定を申請し許可された機関。
- ・訓練評価センター（プロバイダーとも言われる）は、資格授与機関によって構成された資格内容を具体的にどのような過程で訓練として実施してそれを評価するかの計画書を資格授与機関に提出し、それが認可されると、例えばCity & Guild認可センターとしてCity & GuildのNVQ 車両部品操作レベル3の訓練コースを開講することができる。訓練生はセンターに登録し訓練と評価を受ける。NVQ（後述）では評価者がOJTを観察する等の方法で訓練生の上達度が継続的に評価される。

この制度では複数の資格授与機関が同じ資格（例：NVQ 車両部品操作レベル3）を授与することが可能である。

上記の組織が能力評価制度で果たす役割の詳細を説明する前に、次の項で資格のレベルと種類を説明する。

## 2. 職業資格のレベルと対象分野

### (1) 全国資格枠組み（National Qualification Framework: NQF）と能力評価レベル

数多い資格が資格制度全体の中でどのようなレベルにあるのかを示すために、教育資格と職業資格のレベルを系統立て、例を挙げてレベル1から8までの一覧表にしたものが全国資格枠組みである。この枠組みは当初（1997）は「全国資格枠組み」として設定され既存職業資格のレベルを表にして示し、同時に教育資格と比較したものであったが、2009年に「資格・単位枠組み（QCF）」が正式に導入された時点で再編成され、現在は職業資格が従来の全国資格枠組みに含まれていた資格（NQF資格）とQCF資格に分けられている。

ただしこの分類は職業分野というよりは取得方法の違いによるものが多い(この区別は次項を参照)。この枠組み(NQF)は次のレベル、または職業資格から学業資格に進むため資格選択の指針として使われる。ただしここで示されるレベルは各枠組み内での相対的なものと考えべきで、同じレベルであっても自動的に他の枠組みに移行できるものではない。

この図表では資格分類及び評価レベルの理解に役立てるために、各レベルに入っているNVQで規定されている能力要件を教育資格と比較して表示する。正規の全国資格枠組み<sup>2</sup>は注釈にあるサイトを参照されたい。なお教育資格のGCSEは義務教育修了試験で科目ごとにGからA(最高点)として採点され、D以上が合格。A/ASレベルは高等教育進学試験である。

図表 1-2 職業資格と教育資格

レベル	職業資格	教育資格
導入	訓練受講準備	
1	主に単純作業の数種の仕事で、習得した知識と技能を適用できる。(NVQ1)	GCSE グレード D-G
2	異なった作業環境で変化のある仕事にも、習得した知識と技能を適用できる。単純作業だけでなく、ある程度複雑な仕事でも自分で判断して作業することができる。作業チームのメンバーとして共同作業ができることもしばしば要求される。(NVQ2)	GCSE グレード C-A
3	単純作業はほとんどなく、様々な作業環境で、複雑な業務においても習得した知識と技能を適用できる。かなりの程度の自主性と責任を持って仕事ができることに加えて、他の者の作業を監督し指導する能力もしばしば要求される。(NVQ3)	AS/A International Baccalaureate
4	広範囲な作業環境で行う複雑な技術的または専門的な仕事に高度な自主性と責任を持って対応し、習得した知識と技能を適用できる。他の作業員の仕事及び人材資材配置に関する責任もしばしば要求される。(NVQ4)	准学士 Certificates of Higher Education
5	同上 (NVQ4)	准学士 Diplomas of Higher Education
6	同上 (NVQ4)	学士課程修了
7	広範囲で予測不可能な作業において、習得した技能及び広範囲な基礎理論と高度な技術を適用できる。非常に高度な自主性を持ち、他の作業員の仕事及び人材資材の配置にも主要な責任を持つと同時に、分析、判断、設計、計画及び実行に対して個人の説明責任が要求される。(NVQ5)	修士課程修了
8	同上 (NVQ5)	博士課程修了

出所：VOCATIONAL QUALIFICATIONS IN THE UK: 2009/10<sup>3</sup>

## (2) 産業分野別の資格分類

Ofqual では資格を 15 の分野に分類している。各分野はさらに詳細分類されている。Ofqual は教育(大学以外)、一般資格(例：基礎技能、外国人のための英語検定)の監査にも責任を持つため、この分類は産業分野に限らない。15 の分野は次の通り。サブ分野<sup>4</sup>は注釈

<sup>2</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/qualifications-assessments/89-articles/250-explaining-the-national-qualifications-framework>.

<sup>3</sup> <http://www.thedataservice.org.uk/NR/rdonlyres/AA0BA84A-7ACF-4280-8180-CEA7565A98A9/0/VQ200910Commentary.pdf>.

<sup>4</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2010-11-26-statistics-glossary.pdf>  
(p.3) Sector subject area.

にあるサイトを参照されたい。

1. 保健、公共サービス、介護
2. 科学、数学
3. 農業、園芸、動物の世話
4. 機械及び生産テクノロジー
5. 土木、設計及び建造環境
6. 情報伝達テクノロジー
7. 小売、商業活動
8. レジャー、旅行、観光
9. 芸術、マスコミ、出版
10. 歴史、哲学、神学
11. 社会科学
12. 外国語、文学、文化
13. 教育訓練
14. ライフ・ワーク準備
15. ビジネス、経営、財政、法律

### 3. 職業資格の種類

資格授与機関が Ofqual に申請して認可された資格は、管理対象資格 (Regulated Qualifications) として Ofqual に登録される。以下この報告書ではこの資格を「認可資格」という。この認可資格は一般資格 (Vocational Qualifications) と上級資格 (Higher Qualifications) に分類されている。上級資格は上記の全国資格枠組みレベル4以上の資格である。ただし高等教育資格は含まない。2011年現在一般資格12,460、上級資格1,841が登録されている。このように資格の数が非常に多いのは、後述するように資格はレベルに分けて数えられるからである。

#### (1) 一般資格 (Vocational Qualifications<sup>5</sup>)

##### ア 一般資格の種類

Ofqual では一般資格を次の4種類に分類している。

- ・ 全国職業資格 (National Vocational Qualifications: NVQ)
- ・ 職業関連資格 (Vocationally Related Qualifications: VRQ)
- ・ 職種別資格 (Occupational Qualifications: OQ)

<sup>5</sup> この項で使用している統計情報の出典は全て Ofqual Vocational Qualifications 及び Quarterly Higher Qualifications Quarterly.

<http://www.ofqual.gov.uk/files/2011-08-26-Final-VQQ-Q2-2011-v2.pdf>.

<http://dera.ioe.ac.uk/10442/1/2011-08-26-Final-HQQ-Q2-2011.pdf>20110826220112.

- ・資格単位枠組み (Qualifications and Credit Framework: QCF)

12,460 ある一般資格の内訳は、QCF 資格 8,544(69%)、VRQ 2,296(18%)、NVQ 1,530(12%)、OQ 90(1%)となっている。QCF の数が NVQ に比較して格段に多いのは前者では資格が細分化されているためである。

- ・全国職業資格 (NVQ)

訓練生(資格取得希望者)の業務実践能力を評価する資格で、訓練は主に訓練生の職場で行われ<sup>6</sup>平常業務の上達が継続的に評価される。資格対象は非常に幅広い産業分野にわたっている。評価の対象になる技能達成目標は産業別技能委員会(Sector Skills Councils: SSC)が決定する産業別の全国職務基準に基づいて設定される。

- ・職業関連資格 (VRQ)

訓練生に対して、職場で業務を遂行するために必要な知識と技能を訓練する。NVQ 同様、雇用を前提とした資格であるが、必ずしも雇用されている必要はなく、訓練と評価は全面的に全国職務基準基に基づくものではない。この資格には特に14歳から19歳を対象にした雇用準備資格が多い。

- ・職種資格 (OQ)

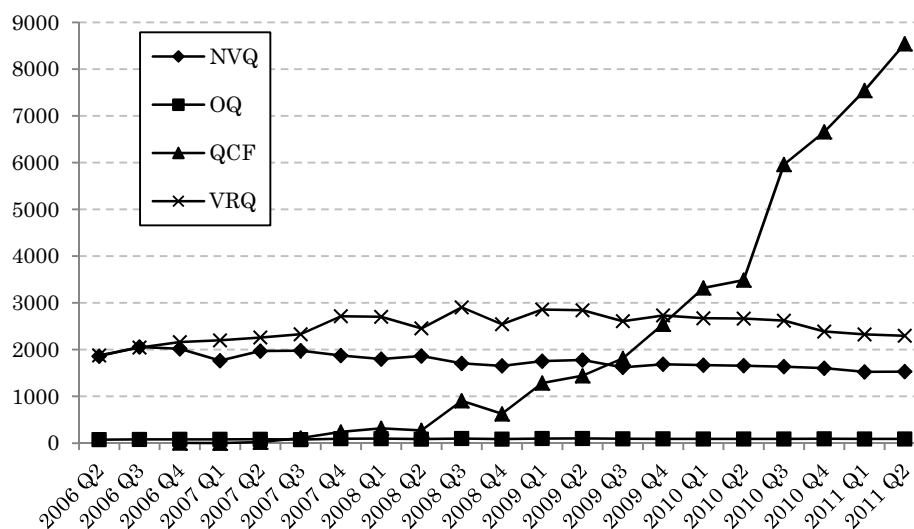
特定の職種に必要な能力開発のための資格。訓練生は雇用されていることが必要で、NVQ 同様、訓練と評価は訓練生の職場で行われるが NVQ とは別な資格である。

- ・資格単位枠組み (QCF)

2009年に導入された新しい能力評価制度。従来の制度では一つの資格を取得するためには、そのための訓練を継続して完了する必要があったが、QCFは「クレジット」といわれる点数を集めて柔軟に資格を取れるようにした制度。クレジットとは「貯金の口座に入金する」または「口座残金」の意味があり、訓練成果を少しずつ貯蓄して資格を取るために使うことを示唆している。QCFの特徴は、このクレジットが複数の資格の間で移行可能な点と、従来の資格を三つに分けてそれぞれを資格として認めていることである。この方法によって様々な理由でNVQのような長期訓練が必要な資格を取れなかった人にも、認可資格を取得する機会が広がることになった。また従業員に特定の職務に関する資格が義務付けられている業種では、従来のNVQに比べて事業主にとっても便利な制度と考えられる。QCFは取得したユニットの「サイズ」によって少ない方から Award, Certificate, Diploma と呼ばれる。QCFについては第2節で詳しく説明する。

---

<sup>6</sup> OJTの詳細は労働政策研究報告書 No.16 (2004)参照。

図表 1-3 2006年から2011年までの四半期毎の認可職業資格数の変遷<sup>7</sup>

## イ 一般資格取得状況

## (7) 資格取得者数

上記4種類の資格における上位10の資格と取得人数は次の通り<sup>8</sup>。

各表の資格名にあるイニシアルは資格授与機関名。人数は50で切り上げ、0は25以下を示す。

図表 1-4 全国職業資格 NVQ

資格名	2010年	2011年
City & Guild NVQ レベル2 保健と社会福祉 (高齢者介護)	7,900人	7,750人
City & Guild NVQ レベル3 保健と社会福祉 (高齢者介護)	5,650	5,150
EDEXCEL NVQ レベル2 保健と社会福祉 (高齢者介護)	5,050	3,200
EDEXCEL NVQ レベル2 乗客運搬車両運転	2,450	2,950
EDI レベル2 乗客運搬車両運転	1,200	2,600
City & Guild NVQ レベル3 保育	2,500	2,350
EAL NVQ レベル2 機械操作	2,250	2,200
EDEXCEL NVQ レベル3 保健と社会福祉 (高齢者介護)	3,100	2,100
CACHE NVQ レベル3 保育	2,350	1,950
EDI NVQ レベル2 保健と社会福祉 (高齢者介護)	1,350	1,700

<sup>7</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2011-08-26-Final-VQQ-Q2-2011-v2.pdf> (p.10).

Figure 1: Number of available regulated Vocational Qualifications, per quarter, Apr-June 2006 to Apr-Jun 2011.

<sup>8</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2011-08-26-Final-VQQ-Q2-2011-v2.pdf>

NVQs Table 3 p31/ VRQs Table 7 p35/ OQs Table 16, p44/QCF Table 11, p39.

図表 1-5 職業関連資格 VRQ

資格名	2010 年	2011 年
OCR National First Award レベル 2 ICT	55,800 人	57,050 人
OCR National Award レベル 2 ICT	31,200	34,800
EDEXCEL BTEC First Certificate レベル 2 スポーツ	21,100	16,600
EDEXCEL BTEC First Certificate レベル 2 応用科学	23,250	16,400
OCR National Certificate レベル 2 ICT	9,100	9,350
OCR National First Certificate レベル 2 ICT	8,550	8,950
EDEXCEL BTEC First Certificate レベル 2 ビジネス	10,150	8,150
EDEXCEL BTEC First Diploma レベル 2 応用科学	7,300	7,800
EDEXCEL First Diploma レベル 2 スポーツ	9,450	6,600
OCR National Award レベル 2 科学	5,550	6,450

(注) 上記の資格は全て 14 歳以上対象の雇用準備資格。

図表 1-6 職種資格 OQ

資格名	2010 年	2011 年
City & Guild 複数方式使用による評価*レベル 3	1,700	950
EDEXCEL 複数方式使用による評価レベル 3	900	450
OCR 複数方式使用による評価レベル 3	700	400
City & Guild 評価過程の内部品質保証監査レベル 4	350	350
RHS 園芸 Certificate レベル 2	250	300
EDI 複数方式使用による評価レベル 3	200	200
EDEXCEL 評価過程の内部品質保証監査レベル 4	300	150
OCR 評価過程の内部品質保証監査レベル 4	150	100
EAL 複数方式使用による評価レベル 3	100	100
EDI 評価過程の内部品質保証監査レベル 4	50	100

\*NVQ の評価者対象

図表 1-7 資格単位枠組み(QCF 制度による資格取得者)

資格名	2010 年	2011 年
CIEH ケータリング食品衛生レベル 2	0	51,400
BSC 職場の健康安全レベル 1	0	14,850
Sports Leaders UK スポーツ・リーダーシップレベル 1	0	12,900
BCS IT スキル Certificate レベル 2	9,100	12,750
CIEH 職場の健康安全レベル 2	0	12,450
BIIAB 酒類販売免許レベル 2	0	9,300
NOCN 自己向上のためのスキル導入*	3,000	8,150
HABC 調理ケータリング食品衛生レベル 2	6,300	7,050
HABC ドア警備レベル 2	0	6,800
EDEXCEL BTEC Extended Certificate 応用科学	0	6,300

\*14 歳以上対象の資格

(注) 業種によっては事業主が従業員にレベル 2 の資格を修得させることが義務付けられている。従って従業員の定着度が低い業種では取得者の数が特に目立って多くなる。



(イ) 資格分野、レベル別取得状況<sup>9</sup>

数値は全て 2011 年 4 月から 6 月。

図表 1-8  
NVQ 分野別資格取得者数

保健、公共サービス及び介護	34%
機械及び生産テクノロジー	21%
ビジネス、経営及び法務	16%
小売及び商業活動	13%
建設、設計及び建造環境	5%
教育及び訓練	4%
レジャー、旅行及び観光	3%
農業、園芸及び動物の世話	2%
その他の分野	2%

図表 1-9  
NVQ レベル別資格取得者数

Level 1	3%
Level 2	60%
Level 3	32%
Level 4	5%
Level 5	0%

図表 1-10  
VRQ 分野別資格取得者数

情報・通信技術	33%
レジャー、旅行及び観光	15%
保健、公共サービス及び介護	11%
科学及び数学	9%
芸術、メディア及び出版	8%
ビジネス、経営及び法務	7%
機械及び生産テクノロジー	7%
建設、設計及び建造環境	4%
小売及び商業活動	2%
農業、園芸及び動物の世話	2%
その他の分野	2%

図表 1-11  
VRQ レベル別資格取得者数

Level 1	6%
Level 2	78%
Level 3	16%

図表 1-12  
QCF 分野別資格取得者数

小売及び商業活動	20%
芸術、メディア及び出版	12%
ビジネス、経営及び法務	12%
保健、公共サービス及び介護	12%
人生設計及び職業選択の準備	11%
レジャー、旅行及び観光	9%
情報・通信技術	6%
機械及び生産テクノロジー	6%
建設、設計及び建造環境	4%
農業、園芸及び動物の世話	4%
教育及び訓練	2%
科学及び数学	1%
その他の分野	1%

図表 1-13  
QCF レベル別資格取得者数

Entry level	7%
Level 1	24%
Level 2	49%
Level 3	11%
Level 4	1%
Level 5-8	1%

<sup>9</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2011-08-26-Final-VQQ-Q2-2011-v2.pdf>  
p15,p16,p20,p21,p24,p25.

図表 1-14  
QCF サイズ別資格取得者数

Award	63%
Certificate	26%
Diploma	11%

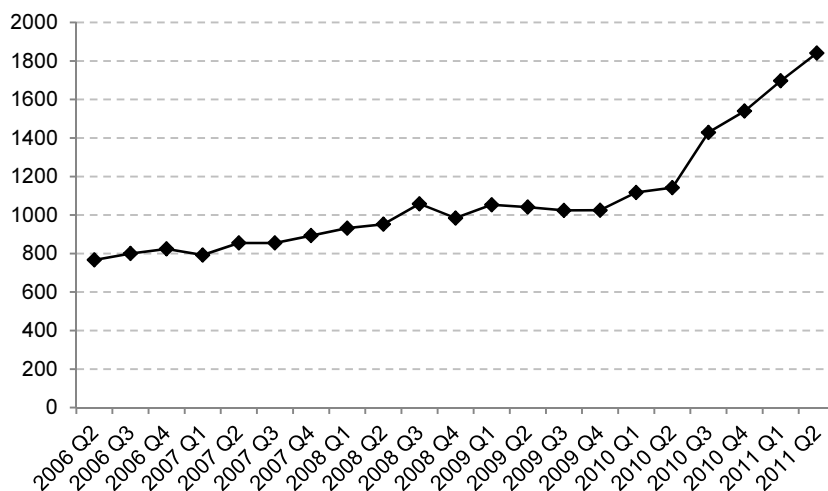
図表 1-15  
OQ レベル別資格取得者数

Level 2	10%
Level 3	69%
Level 4	21%

## (2) 上級資格

Ofqual に登録されている資格で高等教育(大学)以外のレベル4以上の資格を指す。この資格グループには専門家協会が授与する資格が多く含まれている。2010年以降の急激な増加は資格単位枠組み(QCF)の導入の結果であり、新たに認可資格として登録されている資格は全てQCFである。このレベルでは、専門家協会が資格授与機関として認可されており検定で合否が決定する資格が多くある。公認(勅許<sup>10</sup>)マネジメント協会(Chartered Management Institute)等がその例である。つまりこのレベルでは資格取得のための準備は個人の責任であり職場での訓練、評価及び必修訓練は含まれないものも多くある。

図表 1-16 2006年から2011年までの四半期毎の認可上級資格数の変遷



<sup>10</sup> 勅許 Chartered とは正式には王室(女王陛下)認可の組織またはその組織が授与する資格を指す。職業資格では最高のレベル。

図表 1-17 上級資格の取得者数上位 10 の資格<sup>11</sup>

資格名	2010 年	2011 年
City & Guild 生涯教育部門教師準備 レベル 4	1,650	1,850
CII 財政プランニング Diploma レベル 4	150	1,300
Cambridge 第二外国語としての英語教師 Certificate レベル 5	0	750
EDEXCEL 生涯教育部門教師 BETEC Certificate レベル 4	750	750
ILEX 法律レベル 4 Certificate	50	700
AAT 会計 NVQ レベル 4	400	650
CMI マネジメントとリーダーシップ Diploma レベル 5	500	600
CMI マネジメントとリーダーシップ Certificate レベル 4	650	600
NULL*	0	500
City & Guild NVQ 保険と介護 レベル 4	600	500

\*関連情報未発表

図表1-18  
上級資格分野別取得者数  
(2011年4月から6月)

ビジネス、経営及び法務	43%
教育及び訓練	25%
保健、公共サービス及び介護	17%
芸術、メディア及び出版	4%
建設、設計及び建造環境	2%
機械及び生産テクノロジー	1%
その他の分野	3%

図表1-19  
上級資格レベル別取得者数  
(2011年4月から6月)

Level 4	63%
Level 5	24%
Level 6	7%
Level 7	4%
Level 8	1%

### (3) 徒弟制度 (Apprenticeships)

徒弟制度<sup>12</sup>は、職業資格制度と関連して説明されることが多いが、これ自体は資格ではなく、若年者を対象にした技能訓練制度であり、訓練を完了するために複数の資格または終了証明が必要である。

### (4) 専門資格

Professional Qualification といわれる専門資格は、制度として公式な定義はないが、一般に Post Graduate つまり全国資格枠組みでレベル 6 以上にあたる大学卒業資格が必須条件とされる資格を指す。Ofqual の統計では上級資格の取得者はレベル 4 と 5 が 87% を占めており、レベル 6 以上は極端に少なくなっている。これは、このレベルの資格取得者の実数が少ないことが当然理由の一つであるが、その他にこのレベルの資格は専門家協会が独自に授与するものが多く、Ofqual の統計の対象にならないことが主な理由である。

専門資格とは、例えば税理士、医師等の特定の職業につくための資格と考えられがちであるが、イギリスで専門資格といわれるものは、特定分野の専門知識を証明するものが多い

<sup>11</sup> <http://dera.ioe.ac.uk/10442/1/2011-08-26-Final-HQQ-Q2-2011.pdf>

Table 3: Top 50 Qans by Achievements: For Higher Level Qualifications C40showing 2011.2 vs 2010.2 England (p 23).

<sup>12</sup> この制度の詳細は JILPT 資料シリーズ No.57 2009 年 6 月 「欧米諸国における公共職業訓練制度と実態 - 仏・独・英・米 4 カ国比較調査」第 3 章 イギリスの公共職業訓練参照。

(例：Management and Leadership)。またイギリスでは昇進とは、より条件のいい職場を探して移っていくことが多いため、このような資格を保有していることはキャリア向上に当然有利である。

#### ア 大学教育としての専門家訓練

これから労働市場に入ろうとする若年者が専門資格を取得するためには、専門家協会が認可した大学のコース(学士)を卒業することが最も有利な条件である。このような資格の例として公認環境衛生協会 (Chartered Institute of Environmental Health: CIEH) が授与する環境衛生士の資格がある。現在イギリス国内の11の大学がCIEHに認可された環境衛生科学(BSc in Environmental Health/Science)を開講している。大学卒業後一定の実践経験に基づくポートフォリオをCIEHに提出し、筆記試験に合格することによって正規の環境衛生士の資格が授与される<sup>13</sup>。

さらにレベルの高い専門資格は修士課程を修了する必要がある。ロンドン大学 University College London で開講している図書館・情報学修士課程 (Library and Information Studies MA) がその例の一つである。このコースは司書・情報専門家協会 (Chartered Institute of Library and Information Professionals) に認可されており、フルタイムで1年、パートタイムで2年かけて終了する。受講資格は関連分野の大学卒業資格または1年以上の関連分野での業務経験となっている。

#### イ 産学提携政策と大学における職業教育<sup>14</sup>

欧州経済成長政策の一環である欧州高等教育圏は、高度な知識と技術を持つ人材養成のため大学教育、特に修士課程以上での教育が重要な役割を担うとしてEU加盟国の高等教育機関の協力活動を強力に推進している。このような背景のもとでイギリスの大学では、在職者を対象に高度な専門教育を行う修士課程を積極的に開発している。

前述したように専門資格とは分野の専門知識の証明であるため、その効果を維持するためには常に知識を更新している必要がある。これは専門知識継続開発 (Continuous Professional Development: CPD) といわれ、専門知識を必要とする人材開発には欠かせないとされており、そのため学費を負担して従業員を大学で学ばせている企業が急速に増えている。このような産業界のニーズに対応するために大学が取り入れている制度の一つが (Work Based Learning: WBL) といわれる概念に基づく履修方法である。WBLの基本概念は、知識の習得は教室だけでなく可能なものではなく学習者が仕事の経験から学ぶことが重要な知識の部分と考えられるというものであり、この概念自体は特に新しい教育理論ではない。WBLが現在

<sup>13</sup> [http://www.cieh.org/professional\\_development/becoming\\_an\\_ehp.html](http://www.cieh.org/professional_development/becoming_an_ehp.html).

<sup>14</sup> この項(ii)は公益財団法人関西生産性本部発行「訪欧“高等教育”調査団 報告書」(2011年)のグリニッジ大学と欧州連合高等教育の項を参考に行っている。

大学で新たに注目されているのは、この概念を導入し職業経験を「クレジット」つまり単位取得のための得点とすることによって、在職者が効果的に必要な専門知識を学ぶことができるという点である。このような傾向が高まっている背景には、研究開発を含めて企業内の様々な部門で指導的な役割を果たす社員の研修を行うために、高度な専門知識が集中している大学が有効な訓練機関であるということが産業界において急速に認識されてきたためである。またイギリスでは修士課程修了そのものがレベル7に値する専門資格であると一般に認められていることが、このような産学連携活動が発展している重要な背景といえる。さらに時間に制限のある在職者の履修を可能にするために様々な制度が設定されている。ロンドンにあるグリニッジ大学は産業に直結した科目を多く提供する大学であり、ここでは修士課程はフルタイム(1年)の他、全ての修士コースがパートタイムで履修できる。また、遠距離履修も多くのコースで提供して、産業界における人材養成の需要に対応している。

#### 4. 関係機関

##### (1) 資格・試験監査機関 (Office of Qualifications and Examinations Regulation: Ofqual)

Ofqual は、「徒弟制度、技能、子供及び学習に関する法規 2009 年 (Apprenticeship, Skills, Children and Learning Act 2009: ASCL Act)」第7章に基づき 2010 年に正式に発足した。Ofqual は、教育及び職業資格とその試験や評価の水準を保ち、資格利用者の信頼を高め、資格に関する情報が常に入手できるようにする義務がある。イングランドでは教育(高等教育は含まない)、一般および職業資格を、北アイルランドでは職業資格を監査する。Ofqual はまた、資格とその評価方法を作成する機関(資格授与機関)を正式に認可し、その機関が提供する資格を認可し、認可された資格授与機関の業務活動を監督する。

Ofqual は内閣の省には属さず国会に直接報告する<sup>15</sup>。

資格の水準と評価の公正さを維持するために Ofqual は次の義務がある。

- ・ 資格授与機関が提供する資格が公正であり、他の授与機関が提供する同じ資格と比較可能であることが確認される必要がある。
- ・ 各種資格、試験、及び評価の水準を監督し、結果を公表する。
- ・ 資格取得希望者が公平に資格及び評価にアクセスできる制度を確立し維持する。
- ・ 試験及び他の評価の採点が正確で公正であることを確認する。
- ・ 資格市場が、学習者や事業主のニーズを満たし、利用者にとって価値があるように適切に対応する。
- ・ 試験や資格の水準等、資格制度に関する討論を推進する。

Ofqual は 2011 年 5 月に資格授与機関と資格の監査の方針を変更する計画を発表し、7 月に新しいアプローチとして、リスクの高い監査領域に優先的に監査資源を投入するリスク

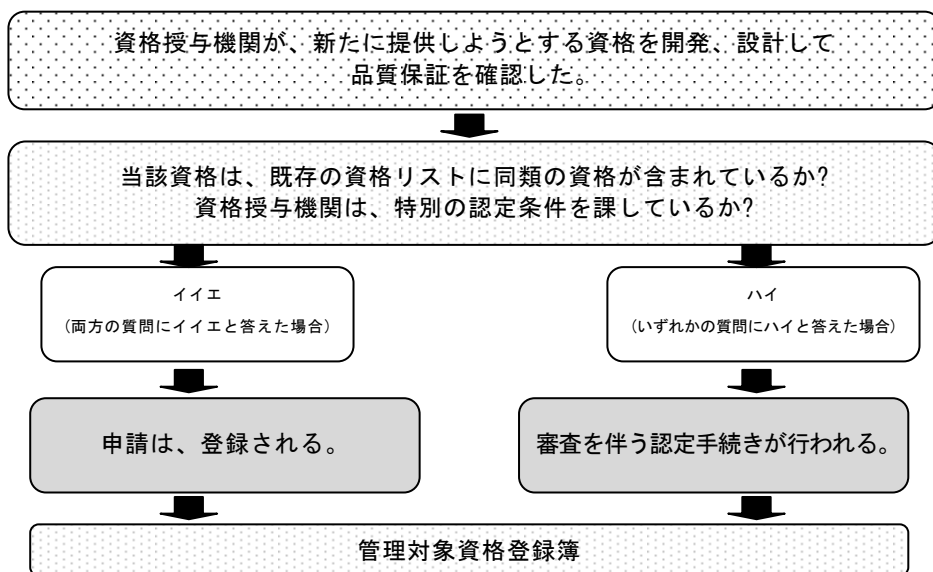
<sup>15</sup> Apprenticeship, Skills, Children and Learning Act 2009 全文は次のサイト参照。  
<http://www.legislation.gov.uk/ukpga/2009/22/contents>.

ベースの監査を取り入れることを明らかにした。このアプローチに基づいて、次のような資格認可制度の改正が行われている。

従来認可のために申請された資格は全て同じ認可過程を通して認可され登録されたが、2009年に成立した「2009年徒弟制度、技能、子供及び学習に関する法」によって監査の焦点が個別の資格から資格授与機関に移った。つまり、既に認可を受けている資格授与機関から申請された資格は、認定検査を受けるべき特定の理由がない限り、認可資格としてOfqualに登録される。認定検査なしで登録された資格に対しては、規則的なサンプル検査が行われ、資格授与機関の品質がモニターされる。この制度ではOfqualは、引き続き検査の対象になる資格またはその種類のリストを公表する義務がある。このリストに載っていない資格は申請と同時にOfqualに認可資格として登録される。認定検査の対象(リスクあり)になるのは次の二つの場合がある。

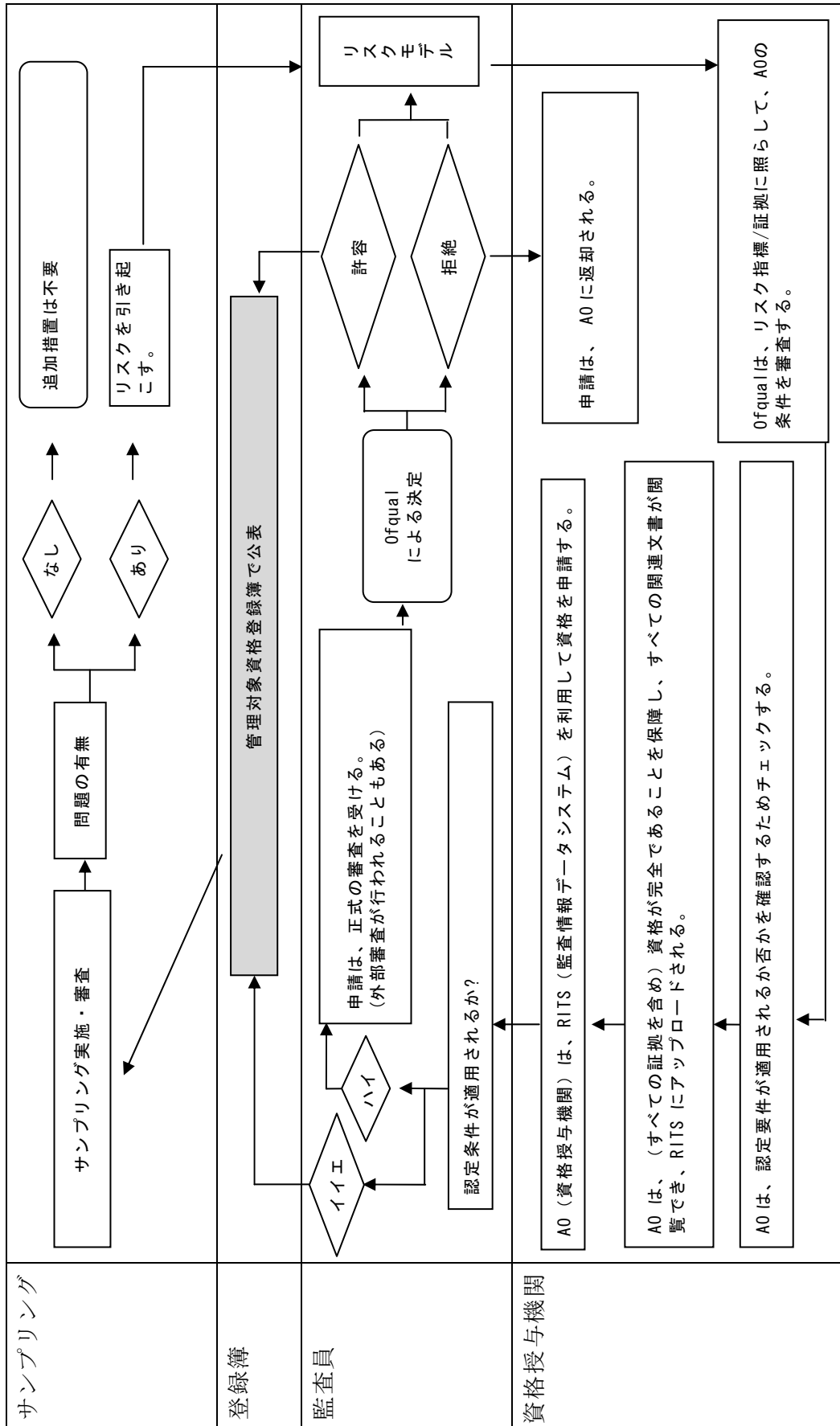
- ・申請している資格授与機関に関わらず、特定の検査理由がある資格。
- ・特定の資格授与機関とその機関が申請する全ての資格。

図表 1-20 : 新しい監査モデル<sup>16</sup>



<sup>16</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/for-awarding-organisations/operating/201-operating-articles/683-what-does-accreditation-mean-now>.

図表 1-21 図表 認可のための検査過程<sup>17</sup>



<sup>17</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2011-07-17-registration-process-map.pdf>.

Ofqual では監査制度の効率を高めるために、資格授与機関が認可申請やモニターのために利用できる「監査情報データシステム (Regulatory Information Technology System : RITS)」を導入している。

また、イギリスでは資格、特に低レベルの資格が「商品」として多数市場に出ているという事情がある。Ofqual はこの資格市場を正確に理解して、資格の利用者が最も適切な資格を利用できるように、また資格の品質を維持する役割を持つ。このため Ofqual では各種調査や諮問を実施している<sup>18</sup>。

## (2) 資格授与機関(Awarding Organisations)

資格授与機関は資格の作成と授与に責任を持ち、2010年現在145の機関がOfqualに認可されている。資格授与機関は総合資格授与機関と産業分野専門の資格授与機関がある。前者の例ではCity & Guild, Edexcel, OCRの3組織が学業資格も含む最も多くの資格を提供している。後者には前述の資格取得者数の項にある例として次のような組織がある。

- ・ CIEH: Chartered Institute of Environmental Health(環境衛生協会)
- ・ CII: Chartered Insurance Institute(保険・財政サービス専門家協会)
- ・ CMI: Chartered Management Institute(マネジメント専門協会)

それぞれが専門分野の協会であり、その業界の人材育成戦略の一環として各産業分野の資格を推進している。これらの資格では能力評価の方法としては筆記試験の検定も含む様々な形式がある。(3.資格の種類参照)

資格授与機関が資格を提供するためにOfqualの認可は法的に必要なものではないが、品質の証明として有効と考えられている。またOfqual認可でない資格授与機関の資格は、その訓練や評価に政府の財政援助を受けることはできない。資格取得のための訓練と訓練生の評価は資格授与機関の業務には入らない。

### ア Ofqual による資格授与機関の認可

資格授与機関の認可を希望する組織は次の4つの分野での必要条件を満たさなければならない<sup>19</sup>。

- ・ 組織の背景(身元)
- ・ 組織の統一性(運営体制)
- ・ 資材と財政
- ・ 業務実行能力

上記の全ての条件を満たして認証された組織は、その業務を遂行するにあたって認可機関

<sup>18</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/how-we-regulate/economic-regulation/138-economic-regulation/346-qualifications-market>.

<sup>19</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2011-05-16-criteria-for-recognition.pdf>.



としての総合規程に従わなければならない。この総合規程には、資格授与機関としての運営活動及び資格に関して70ページ以上にわたって次の事項が詳細に規定されている<sup>20</sup>。

[資格授与機関に関する規程]

1. 組織の運営
2. 資格授与機関と Ofqual
3. 第三者(訓練及び評価センター)

[認可資格に関する規程]

1. 認可資格に関する一般規定
2. 資格の設計と開発
3. 資格の販売(手数料の明記等)
4. 評価方法の設定と開発
5. 採点と結果の発表
6. 審査申し立てと証明書
7. 用語の定義

## イ 資格授与機関の業務

資格授与機関は資格の作成と認可申請の他に、資格利用の推進と技能開発に関する様々な業務を行っている。大手資格授与機関の一つである City & Guild (C&G) を例にとって実際の業務を説明する<sup>21</sup>。

C&G のホームページは(1)資格、(2)学習者(資格取得希望者)、(3)訓練・評価センター、(4)事業主向けに別れている。

資格についてのページ：C&G は学業資格も含めて28分野で500にのぼる資格を授与している。このページで、資格の比較、タイプ、レベル、職種と科目及びQCF、さらに個々の資格について詳しく説明されている。

学習者向けのページ：C&G は資格の数が多く訓練評価センターが全国にあり学習者にとって都合がいいことの他に、財政援助に受け方、学習者の記録、E-ラーニング等の説明がある。またキャリアアップの次の段階としてのマネジメントとリーダーシップ等の上級資格の説明もある。このセクションから資格のページへもアクセスできる。資格取得希望者が最も適切な資格を選べるように様々な説明が記載されている。

評価センター向けのページ：資格証明書の発行、再発行等の事務手続き等の説明に加えて、C&G 資格コースの開講及び C&G の認可センターになるための手続きが説明されている。また、C&G が新たに導入している E-アセスメントについても説明がある。C&G では雇用と技能に関する各種のイベントも開催しており、その日程も掲載されている。

<sup>20</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2011-05-16-general-conditions-of-recognition.pdf>.

<sup>21</sup> 詳細は City & Guild のホームページ参照。 <http://www.cityandguilds.com/uk-home.html>.

事業主向けのページ：各資格の説明の他に事業主を対象にした次のようなサービスの情報が記載されている。

- ・社内訓練に C&G 資格の認可を与える。
- ・C&G または ILM(リーダーシップ・マネジメント協会)の資格にあわせて従業員の技能向上動機を高める。
- ・C&G 資格を企業のニーズにあわせてカスタマイズする。
- ・社内訓練についてアドバイスする。
- ・企業のニーズに合った専門の資格を開発する。
- ・新採用の従業員対象の徒弟制度のコースをデザインする。

C&G は総合的な資格授与機関であるが、特定の産業専門の資格授与機関も規模は異なっても、当該産業内で技能向上のためにほぼ同様な業務を行っている。このように、能力開発の実践において資格授与機関は中心的な役割を果たしていると言える。既にふれたが、資格授与機関は実際の訓練は行っていない。

### (3) 産業別技能委員会 (Sector Skills Councils: SSC)

産業別技能委員会(SSC)は産業界の需要に合った人材開発を目的とした雇用主の全国組織である。適切で効果的な人材育成実施のために、SSCは職業資格開発の基礎になる全国職務基準(National Occupational Standards: NOS)を作成し常に更新している。また各産業の委員会は産業別資格戦略(Sector Qualification Strategies: SQS)<sup>22</sup>を開発し、各産業でどのような資格が必要かを確認している。SSCは、非政府組織である英国雇用技能委員会(UK Commission for Employment and Skills : UKCES)のライセンスを受けて活動し、その代表組織は産業別技能連盟(Sector Skills Alliance)で、現在22のSSCが加入している。

#### ア 全国職務基準(NOS)

NOSは、各産業部門の技能委員会と関係分野の基準設定機関が協力して設定した職務基準で、個人が特定の職務を実行するにあたって必要とする知識と技能を具体的に記述したものである。基準設定には29の関係機関が参加している<sup>23</sup>。

<sup>22</sup> UKCES による技能開発施策の一つ。参照サイト。

[http://webarchive.nationalarchives.gov.uk/+/http://www.ukces.org.uk/our-work/qualifications/sector-qualifications-strategies-\(sqs\)/](http://webarchive.nationalarchives.gov.uk/+/http://www.ukces.org.uk/our-work/qualifications/sector-qualifications-strategies-(sqs)/)

<sup>23</sup> 参加機関 <http://www.ukstandards.co.uk/contact/Pages/contactList.aspx>

図表 1-22 NOS 資格の事例

<p>NOS G4 –自動車修理における手工具と機具の使用<sup>24</sup></p> <p>ここで示す NOS について</p> <p>自動車業界で使われる道具、材料及び加工物使用の基礎に関する職務基準</p> <p>この NOS は次の事項に関するものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の解釈</li> <li>・ 安全で健康に害のない作業の適用</li> <li>・ 材料と機材の選択</li> </ul> <p>この NOS は自動車修理の補助作業をする者が対象。ワークショップを設定する者にも適する。</p> <p>基礎知識</p> <p>訓練生は次に関する知識と理解力を有しなくてはならない（全 10 項目）。</p> <p>(a) 不適當な情報やリソースを報告し修正するための社内規程</p> <p>(b) 情報の種類、情報源及びその解釈方法</p> <p>(c) 現にある情報に基づいて問題を解決するための社内規程と、その重要さ</p>
--

NOS は「事業主による事業主のための職務基準」といわれ、Ofqual によって資格認可の判定基準に使われる。また、資格授与機関による資格の開発、企業専用のプログラムの開発は NOS が基準として使われる。

自動車工業協会 (The Institute of the Motor Industry) の資格「事故修理 - 車体」は全国資格枠組みのレベル 3 と 4 があり、資格構成一覧表に各レベルで必要なユニット(この例はユニット G4)が指定されている。この NOS は 59 ページからなる。産業技能委員会による資格の認可過程については 2009 年に BIS から SSC 認可過程ガイダンス (SSC Approval Process Guidance) が発表されている<sup>25</sup>。

### イ 産業別技能委員会と資格授与機関の資格認可における共同体制

上記のガイダンスの基づき、2010 年 3 月に産業別技能委員会と資格授与機関の代表者グループによって、資格認可ガイドが作成された。このガイドには、事業主が必要とする職場での技能向上にとって効果的な資格を作成するためには両機関がどのように協力していくべきかが示されている。図表 1-23 はこのガイドに含まれている事項の一例「新しい資格作成の申し込み」で示されている資格授与機関が技能協会に提出すべき情報のリストの一部である。

<sup>24</sup> 全文掲載サイト。

<http://www.motor.org.uk/documentlibrary/Standards%20and%20Qualifications/Accident%20Repair%20-%20Body-%20%20NOS.pdf>

<sup>25</sup> [http://www.qcda.gov.uk/docs/QCF\\_BIS\\_SSC\\_approvals\\_process\\_guidance.pdf](http://www.qcda.gov.uk/docs/QCF_BIS_SSC_approvals_process_guidance.pdf)

図表 1-23 資格授与機関が技能協会に提出すべき情報のリストの一部

SSC Approval Process Guidanceに基づき:資格授与機関は当該 SSCに次の情報を必ず提出しなければならない:
申請する資格にはどのような需要があるのか。 この資格には市場はあるか? 利用はどのぐらいと予想されるか?
申請する職業資格は SQS と SQS の実施計画の条件をどのように満たすか。 申請する職業資格はどのようにして学習者、事業主及び英国の経済成長のニーズを満たすか?この資格は需要に基づく資格制度の発展に貢献するか?
申請する職業資格を構成するユニットの数 この職業資格は約いくつのユニットで構成されるか?これらのユニットは何をもとにしているか?共通のユニットがあるか?新しいユニットが加えられるか?
名称は QCF 形式でレベルを含むこと* この職業資格はどういう名称になるのか?
訓練生はどのように評価されるかの詳細 この資格を取得しようとする訓練生の評価には具体的にどのような方法が使われるのか?
キャリア向上の機会と方法 この資格を取得した訓練生は、次にどのような資格に進むことができるか?
出所 Approval of vocational qualifications: A guide for SSCs and awarding organisations on how to give approval of qualifications (March 2010) (作成) Sector Skills Alliance, Federation of Awarding Bodies, Joint Council for Qualifications

\* 後述 QCF の項参照

上記の例で見ると産業別技能委員会は職業資格の内容の決定に中心的な役割を果たしている。

#### (4) 評価センター

##### ア 資格授与機関による認可条件

資格授与機関によって認可され、その資格取得のための訓練とその評価を行う機関を指し、訓練プロバイダーとも言われる。ただし資格授与機関はセンターがその訓練を開講することを認可するのであって、組織として認可する訳ではない。つまり一つの訓練センターは複数の資格授与機関の資格を開講することも可能である。またこれらのセンターは必ずしも職業訓練専用の機関である必要はなく、企業が評価センターとして認可を受けることも可能である。受講者の数から見て最大の訓練プロバイダーは、地域の社会人対象に幅広い教育訓練を提供している継続教育カレッジである。ここではフルタイム及びパートタイムで各種のコースを提供している。継続教育カレッジの詳細は、労働政策研究報告書 No.16 (2004)及び JILPT 資料シリーズ No.57 (2009 年)参照。

イギリスには全面的に公的資金で運営される訓練機関はなく、公金援助は特定の条件に合った個人が受けるのであって、訓練機関は必ずしも公的機関である必要はない。事実「訓練」は今日のイギリスでは成長産業の一つと言えるほどであり、前項で見たように「資格市場」の監視と監督が Ofqual の義務の一つになっている。

評価・訓練センターの認可条件については資格授与機関がそれぞれ発表している。例えば大手の総合資格授与機関の一つ Edexcel では評価センターの認可に関して「訓練評価実施に関する品質管理ガイダンス」を発表している。その中で、Edexcel の資格を提供するセンターが Quality Nominee といわれる品質管理責任者を任命することを規定している。この責任者がセンターで実施される Edexcel の資格訓練評価全体に関する品質管理の「コンタクト・ポイント」として機能する。Quality Nominee はセンターの訓練評価活動に影響力のある地位にあり、センターと Edexcel のセンター評価責任者及び水準監査員との連絡に総合的な責任を持てる者でなければならない<sup>26</sup>。

### イ 訓練評価センターの業務

新しく導入された QCF 形式の資格で 2011 年に取得者が最も多かった資格 CIEH ケータリング食品衛生レベル 2 の授与機関である環境衛生協会（Chartered Institute of Environmental Health: CIEH）では、訓練センター向けのガイダンスで訓練の実施を図表 1-24 のように説明している。

QCF の資格は訓練生の職場での評価は必ずしも必要でなく、資格によっては 1 日から数日のコースと筆記試験で授与されるものもある。QCF については次の節で詳しく説明する<sup>27</sup>。

図表 1-24 コース実施の概要

	役割	必要条件	経費
訓練センター	コースのプロモーション 適切な訓練場を設定し、CIEH 登録の評価者を確保する。 教材の注文 コースに関する情報の広報 訓練と評価の水準に責任を持つ	提供しようとする資格ごとにトレーナーとして CIEH に登録しなければならない。	登録料は資格によって一つにつき 40 から 270 ポンド(消費税抜き)。 新しいセンターはセットアップ料として 250 ポンドの追加料金を払う(消費税抜き)
トレーナー	訓練コースのレッスン・プランを作り実行する。 試験用紙の配布と収集	実施しようとする資格ごとに CIEH に登録しなければならない。 実施しようとする資格ごとに、関連知識が必要な水準に達していなければならない。	資格一つの登録 40 ポンド(消費税抜き) 新しいトレーナーはセットアップ料として 50 ポンドの追加料金を払う(消費税抜き)
資格取得希望者	訓練を受け、試験に合格した者はセンターから証明書を受け取る	資格によっては、関係知識と他の資格を取っていることが必要。	コース受講料はそれぞれセンターのよって決定され CIEH では価格の提示はしない。

<sup>26</sup> ガイダンスの全文は次のサイト参照。

<http://www.edexcel.com/migrationdocuments/Family%20top%20level/Edexcel-QCF-NVQs-and-SVQs-Delivery-and-Quality-Assurance-Guidance.pdf>

<sup>27</sup> ここで引用する CIEH のガイダンスの全文は次のサイトを参照。

[http://www.cieh.org/training/registering\\_deliver\\_qualifications.html](http://www.cieh.org/training/registering_deliver_qualifications.html)

### (7) 訓練・評価センターの責任と条件

評価センターはCIEHの資格の訓練評価を実施するとともに、トレーナー及び受講者のコンタクト・ポイントであり、訓練と評価に関する事務手続きの責任を持つ。センターはCIEHの規定に従って訓練と評価(試験)を実施し、トレーナーはCIEHに登録済であることが必要である。

訓練センターは試験用紙の管理と結果を受験者に通知する責任がある。センターの事務担当者には資格は不要である。

訓練センターはCIEH訓練評価の手引きに準じている限り、教室や訓練設備を備えている必要はない(受講者の業務現場や専用に予約した会議室などで行われることも多い)。

### (4) トレーナーの条件と責任

トレーナーは訓練を実施する。トレーナーはシラバスの規定に従ってトレーニング・セッションのプランを作り、トレーニング・セッションが受講者にとって適切で興味深いものにする。

CIEH資格授与のための訓練はCIEH登録のセンターでのみ実施する<sup>28</sup>。独立(自営業)のトレーナーがCIEH資格授与のための訓練を実施する場合は、センターとトレーナーとしての両方の登録をする必要がある。CIEHの資格の品質を保つためにトレーナーはそれぞれの資格により必要な知識と経験が規定されている。

## 5. 評価者：NVQにおける評価者、監査員、訓練担当者

### (1) 評価者

NVQにおいて、訓練結果の判定を行うのが試験官(examiner)ではなく評価者(assessor)といわれるのは、資格取得が一定の試験の採点結果によって判定されるのではなく、資格取得希望者が個別に決めた達成目標をいかにして達成したかの過程を随時評価して、目標を達成したと判断された時点で資格が授与されるからである。したがってNVQでは訓練と評価が並行して行われることになる。このような制度で評価者は次のような役割を果たす。

評価者は、当該NVQを取得するために必要なユニットの内容について応募者(訓練生)に確認し、合意する。そして訓練生のレベルや応募者の希望、考え方を勘案して、全国職務基準のどの項目を評価基準に取り入れて、応募者の達成するエレメントの内容及びユニットの

<sup>28</sup> CIEHのセンターとトレーナーの登録料金と登録申し込み用紙の見本は下記URLを参照。

CIEH訓練センターとトレーナーの登録料金。

[http://www.cieh.org/uploadedFiles/Core/Training/Registered\\_trainers\\_and\\_training\\_centres/Customer\\_services/Registration\\_Fees\\_CSFEES2.pdf](http://www.cieh.org/uploadedFiles/Core/Training/Registered_trainers_and_training_centres/Customer_services/Registration_Fees_CSFEES2.pdf)

CIEHセンター登録申し込み用紙。

[http://www.cieh.org/uploadedFiles/Core/Training/Registration\\_form\\_centre.pdf](http://www.cieh.org/uploadedFiles/Core/Training/Registration_form_centre.pdf)

CIEHトレーナー登録申し込み用紙。

[http://www.cieh.org/uploadedFiles/Core/Training/Registration\\_form\\_trainer.pdf](http://www.cieh.org/uploadedFiles/Core/Training/Registration_form_trainer.pdf)

内容を評価するのかという評価計画書を作成する。併せて応募者(訓練生)の職場での訓練担当者と協力して、評価対象となる事項をどのような仕事によって達成するのかといった、仕事の割り振り、実施する職場、実施時期等を記入した訓練計画書を作成する。訓練開始後の評価者の役割は次の通り。

- ・ 評価計画表作成
- ・ 応募者が達成した成果を評価するために、合意した基準に照らして証拠(知識と技能の上達度)を判定する。
- ・ 応募者に評価についてフィードバックし、今後の取り組みに対して支援する。
- ・ 評価判定の記録及び訓練生の評価記録を作成する。

評価者は、評価する対象分野に関するレベル3以上の資格を保有していることが望ましい。資格取得後は評価センターに所属する。

## (2) 監査員

NVQ 評価の品質管理は内部監査員と外部監査員によって行われる。

内部監査員は、評価センター内で行われた評価結果を評価記録で照合確認し、あわせて評価決定の証拠をサンプリングする。NVQ の評価は評価者の主観が入りやすいため、内部監査の主目的はセンター内の評価者の判定の正確さと一貫性を確保することにある。内部監査員はセンターで行われている NVQ 評価の全体に責任を持つ。評価記録のサンプリング検査に加えて、評価の現場を観察することが義務付けられている。

外部監査員は資格授与機関から派遣されて、評価センターで実施された評価及び内部監査の監査を行う。外部監査員は訓練生の評価に関する監査だけでなく、評価センターが、資格授与機関による認可条件を継続して維持していることを確認する(この項は、労働政策研究報告書 No.16 (2004) を参考にしている)。

評価者と監査員の資格は資格制度全体の改革と共に変更が加えられているが、現在は次の資格がある<sup>29</sup>。

評価者の資格：

- ・ 評価の理論と実践(Award)
- ・ 業務現場での技能実践能力の評価(Award)
- ・ 職務能力の上達の評価(Award)
- ・ 職務能力の上達の評価(Certificate)

(この資格は全てレベル3)

<sup>29</sup> 参照サイト。

[http://webarchive.nationalarchives.gov.uk/20110414152025/http://www.lluk.org/documents/Assessing\\_and\\_assuring\\_the\\_quality\\_of\\_assessment\\_qualifications\\_fact\\_sheet\\_final\\_August\\_2010\\_non\\_ALP\\_note\\_.pdf](http://webarchive.nationalarchives.gov.uk/20110414152025/http://www.lluk.org/documents/Assessing_and_assuring_the_quality_of_assessment_qualifications_fact_sheet_final_August_2010_non_ALP_note_.pdf)

内部品質管理担当者(内部監査員の新名称)の資格：

- ・ 評価過程と評価実践の内部品質管理の理論(Award)
- ・ 評価過程と評価実践の内部品質管理(Award)
- ・ 評価過程と評価実践の内部品質管理指導  
(この資格は全てレベル 4)

外部品質管理担当者(外部監査員の新名称)の資格：

- ・ 評価過程と評価実践の外部品質管理の理論(Award)
- ・ 評価過程と評価実践の外部品質管理(Award)
- ・ 評価過程と評価実践の外部品質管理指導  
(この資格は全てレベル 4)

### (3) 職場での訓練担当者

NVQ は OJT が評価の対象になるため、訓練生の職場での訓練を担当する者が評価者の任務を理解し協力する必要がある。訓練者の資格は法的に必要なものではないが、職場における効果的な技能訓練の観点から取得が推奨されている。この資格は「訓練と開発 (Learning and Development NVQ)」でレベル 3 から 5 までである。以下は全て NVQ である。

レベル 3 評価者及び監査員

レベル 3 現場訓練サポート

レベル 3 学習と開発

レベル 4 評価者及び監査員

レベル 4 学習と開発教材コーディネーション

レベル 4 学習と開発

レベル 4 学習と開発教材管理

レベル 5 学習と開発

(多少の変化はあるが、資格構成の主な内容に関しては、労働政策研究報告書 No.16 (2004) 参照<sup>30</sup>)。

## 6. 政府の財政支援

技能開発政策を決定する、ビジネス・イノベーション・技能省 (Department for Business Innovation and Skills: BIS) は、2010 年 11 月に技能訓練制度の改革計画である

<sup>30</sup> 最新情報は次のサイト参照。

<http://www.edexcel.com/quals/nvq/learn-dvpmt/Pages/default.aspx>.

訓練担当者の資格に関する全国職業基準は次を参照。

<http://collections.europarchive.org/tna/20110214161207/http://www.lluk.org/wp-content/uploads/2010/11/new-overarching-standards-for-ttt-in-lifelong-learning-sector.pdf>.



「維持可能な経済成長のためのスキル (Skills for Sustainable Growth)」を発表した。この政策では低技能者と求職者を対象にした訓練、及び事業主の需要に対応する訓練制度の推進の二点に改革の焦点が当てられている。

低技能者、求職者対象の施策として、若年者(19-24歳)訓練に広く利用されている徒弟制度プログラムを成人(25歳以上)に拡張し、基礎技能訓練とレベル2のコースを全面財政支援の対象にする等がある。このために2014-15年には2億5,000万ポンドの予算が組まれている。

事業主対象には「経済成長・イノベーション基金 (Growth and Innovation Fund)」の設定がある。この基金は、生産性向上のために現在不十分な技能分野はどこであり、また新技術に対応するためにはどのような技能が必要であるかをもっともよく理解しているのは事業主であるという認識に基づき、産業界の需要にあった技能向上のために革新的な技能訓練を行う事業主組織を対象に年間5,000万ポンドを投資するという施策である。この基金は、資格認可とその訓練課程を設定して試行するにあたって生ずるリスクに対する財政支援が含まれる。この基金の管理運営は BIS の外郭機関である技能基金機関 (Skills Fund Agency) が責任を持つ。

国家予算の中では資格訓練に責任を持つ継続教育に対する予算は、2014-15年には43億ポンドから25%減少され32億ポンドになる。

主要プログラム予算は、2011年から2012年の准予算及び現金予算177億ポンドのうち124億ポンドが知識とイノベーション(大学と研究開発)、47億ポンドが企業と技能となっている。内訳は図表を参照されたい<sup>31</sup>。

新たに導入された資格授与制度である、資格単位枠組み(QCF)の実施に関する公費財政支援はBISの外郭機関であるスキル資金支援機関 (Skills Funding Agency) が支援対象の決定及び支援予算の管理の全ての責任を持つ。資格授与機関と訓練プロバイダー、評価センターはそれぞれの資格の開発や実施について財政支援を申請する<sup>32</sup>。

図表 1-25 ビジネス・イノベーション・技能省の予算(2010/11年から2014/15年度)

単位 (10億ポンド)	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15
省出費合計	18.553	17.733	16.634	15.443	14.638
事務費	0.918	0.835	0.684	0.638	0.606
プログラム経費	15.786	15.720	14.977	14.058	13.062
資本出費	1.849	10178	0.937	0.747	0.970

<sup>31</sup> <http://www.bis.gov.uk/assets/biscore/corporate/docs/b/11-p58-bis-business-plan.pdf>  
Planned Departmental Expenditure 2011/12 (p45).

<sup>32</sup> 詳細は次を参照。

Skills Funding Agency 発行 Qualifications and Credit Framework (QCF):  
Frequently Asked Questions (FAQ).

## 第2節 能力評価制度の現状

### 1. NVQ から QCF へ

#### (1) 全国職業資格 (National Vocational Qualifications: NVQ)

NVQ は、数多くの職業資格を一つの枠組みに統一した制度として評価されているが、それ以上に職業訓練制度に全く新しい概念を導入し、それまで職業訓練や資格には無縁であった人達に正規の資格を取得する機会を与えた画期的な制度であった<sup>33</sup>。NVQ が革新的だった理由として、職場の日常業務を評価の対象にするため訓練の時間を別にとらなくてもいいこと、雇用についていること以外に受講資格は不要であること、また導入レベルを資格として含んでいることが挙げられる。NVQ はレベル1 からレベル5 まであり、基本的には1年で完了する。

NVQ はまた訓練自体にも Outcome-led と Competence-based の二つの新しい概念を導入した。従来の訓練は Input-led つまり「何を教えるか」に基づいて設定されていた。それが NVQ では Outcome-led 「目標が達成できたかどうか」を評価することが訓練の目的になる。その結果、訓練生を教室またはワークショップに集めて知識と技術を教える形態は不適當になった。そのため従来の方法にかわって訓練生個人が、学んだ知識と技能を実際の職場で自分の任務に適用できるかどうかを評価できる Competency based といわれる評価方法が開発された。Competence とは一連の知識と技能を学ぶだけでなく、学んだ知識と技能を職場で適用して自分の任務を実行することができる能力と規定される（実際の訓練の進め方については「5. 評価者」参照）。

NVQ の評価は、訓練生が集めた「証拠」をもとに作成したポートフォリオを、評価者が当該の産業別職務基準に対照して評価する。NVQ では落第するということはなく、評価が規定の水準に達していない場合は、再度繰り返して証拠を集める。証拠は次のようにして集める(例)。

- ・ 評価者による現場の職務観察(訓練生にフィードバック)
- ・ 訓練に責任を持つ上司の証言
- ・ 第三者の証言
- ・ 訓練生のレポート
- ・ 実行した業務の反省と考察
- ・ これまでに学んだ知識や技能についての考察
- ・ 訓練者と評価者の話し合い
- ・ 口頭／筆記による質問
- ・ プロジェクト／ケーススタディ

<sup>33</sup> Alan Chapman 2006-2010.

[http://www.businessballs.com/nvqs\\_national\\_vocational\\_qualifications.htm](http://www.businessballs.com/nvqs_national_vocational_qualifications.htm).

- ・テープまたはビデオでの証拠
- ・シミュレーション(ごく特別な場合に限る)

次は、証拠を集めるためにどのような業務を果たすかを示す例である。

[配管工レベル2のユニット<sup>34</sup>]

- ・配管システムの設置／取外し：水道、排水、暖房用の配管システムを理解するために必要なスキルと、必要に応じてシステムを散り外す方法。
- ・配管と暖房システムの適正さ検査：システムが適正に設置されて正常に作動しているかどうかを確かめるために必要なスキル
- ・システム・メンテナンス：各種配管と暖房システムの修理とメンテナンス計画を立てるために必要なスキル
- ・安全な職務実行：配管と暖房システムに関する業務を安全に実行するためのスキル及び必要な安全法規の理解
- ・仕事現場の規則：必要な規則と現場のルールに従って安全に業務を果たすためのスキル
- ・機材や材料の取り扱い：業務現場において、機材や材料を安全に取扱い移動する技術と能力

このような訓練制度が事業主にとってどのような利益があるかは次のように説明されている。

- ・従業員に効果的に全国水準の訓練を受けさせることができ、その結果業務の効率と質が向上する。
- ・従業員の実際の能力がわかる。
- ・OJTによるため訓練に業務時間を使わなくてもいい。
- ・顧客ばかりでなく従業員も大切にしている会社だという企業品質の証明になる。
- ・従業員に最新の知識と技能を習得させることができる。

このように革新的な資格制度であった NVQ にも近年様々な問題が指摘されるようになってきた。それに対応して再構成された資格制度が次に説明する資格単位枠組み (Qualifications and Credit Framework: QCF) である。

## (2) 資格単位枠組み (Qualifications and Credit Framework: QCF)

### ア QCF の概要

NVQ は様々な面で画期的な資格制度であるが、雇用についていることが条件であるため実際には様々な事情で1年間継続して訓練を受けることが困難な人や、訓練を開始しても中断を余儀なくされる人は少なくない。また、事業主や資格取得希望者にとって1年間の訓練には不要な部分が含まれている場合も多い。このような点を考慮に入れて再構成された資格

<sup>34</sup> 技術用語は概訳。

授与制度が資格単位枠組み（Qualifications and Credit Framework: QCF）である。QCFの制度では雇用についていることが必要条件でない資格も含み、特に低技能者の能力開発・雇用戦略として政府の職業資格改革政策の中心施策の一つになっている。

QCF をごく簡単に表現すると、従来なら一つの資格になった内容を「サイズ」の違う三つの資格に分けることによって、レベルは同じでも「簡易版(または縮小版)」資格が取得できるようにした制度であるということである。この「サイズ」は Award (小または初級)、Certificate (中または中級)、Diploma (大または上級)と呼ばれ、それぞれが独立した資格とみなされるのが特に新しい点である。各資格は「ユニット」の集まりで、各ユニットが「クレジット(得点)」の集まりになる。クレジット1点の予想平均学習時間は10時間とされている。これはユニットの難易度を示すためであって実際の学習時間ではない。各資格のサイズは次の通り。

- ・ Award (初級)            1－12 点
- ・ Certificate (中級)    13－36 点
- ・ Diploma (上級)      37 点以上

QCF のレベルは導入からレベル8までであるが、レベルについては第1節2(1)参照。

個別の資格の説明には、その資格での必修と選択ユニット、各ユニットは何点の価値(クレジット数)があるか、そして資格を取るためには合計何点必要かが表示されている。

### イ QCF の具体例

次に具体例を挙げる。ここで示される時間は指導による学習時間 (Guided Learning Hours: GLH) で、これは何らかの形で指導を受ける時間を示し、コース所要時間と考えていい。

資格授与機関：公認マネジメント協会 (Chartered Management Institute)

資格：マネジメントとリーダーシップ：レベル4

この資格はジュニア・マネージャーを対象にし、意思決定、グループ指導、交渉技術等マネジメント能力の向上を目指す。

図表 1-26 QCF の事例 (マネジメントとリーダーシップ)

Award (初級)	いくつかの能力分野を選んで、マネジメントとリーダーシップの役割と責任を理解する。
Certificate (中級)	マネージャーとして必要なより広範囲の知識と技術を習得する。受講者の職場と職務に必要なリーダーシップ・スキルの分野を選択できる。
Diploma (上級)	マネジメントとリーダーシップの総合的な知識を習得し、高い業務執行能力を持つ指導者を目指す。

図表 1-27 次のユニットから選択(初級、中級)

ユニットNo.		クレジット数	GLH
Unit 4001	様々なマネジメントのスタイル	6	20時間
Unit 4002	関係者の期待への対応方法	7	25
Unit 4003	企業の社風、価値、態度の理解	7	30
Unit 4004	グループダイナミクスの理解	7	25
Unit 4005	報告書の書き方	7	25
Unit 4006	効果的なマネジメント・スキル	7	25
Unit 4007	面接技術	7	25
Unit 4008	平等と多様性への理解と対応	7	30
Unit 4009	従業員監査技術入門	8	40

図表 1-28 ユニットの選択によって取得できる資格

<b>Award (初級)</b>	クレジット合計が6点以上になるようにユニットを選ぶ。	GLH約20-40時間
<b>Certificate (中級)</b>	クレジット合計が13点以上になるようにユニットを組み合わせて選ぶ。	GLH約45-70時間

図表 1-29 次のユニットから選択(上級)

ユニットNo.		クレジット数	GLH
<b>グループA</b>			
Unit 4001	様々なマネジメントのスタイル	6	20 時間
Unit 4002	関係者の期待への対応方法	7	25
Unit 4003	企業の社風、価値、態度の理解	7	30
Unit 5001	管理者、指導者としての自己向上	6	20
<b>グループB</b>			
Unit 4004	グループダイナミクスの理解	7	25
Unit 4005	報告書の書き方	7	25
Unit 4006	効果的なマネジメント・スキル	7	25
Unit 4007	面接技術	7	25
Unit 4008	平等と多様性への理解と対応	7	30
Unit 4009	従業員監査技術について	8	40
Unit 5012	Being a leader 指導者の役割	7	30
Unit 5014	後輩マネージャーの指導	6	30

図表 1-30 ユニットの選択によって取得できる資格

<b>Diploma (上級)</b>	グループ A は必修ユニット。クレジットが合計46点になるように、グループB からユニットを3つ選ぶ。	GLH 約185-195時間
---------------------	---	----------------

参考サイト：

<http://www.managers.org.uk/sites/default/files/u17694/Level%204%20in%20Management%20and%20Leadership.pdf>

QCF の資格は必ずしも雇用現場の評価を必要としない。例えば次の二つの資格は前者が職務実践能力に基づく評価 (competence based) の資格、後者は学習による知識の評価 (knowledge-based) の資格である。どちらか一方が必要な場合、または職務の性格によって知識と技術が同じレベルでなくてもいい場合、このような組み合わせで効果的に訓練を受け資格を取ることができる<sup>35</sup>。

<sup>35</sup> 参考サイト

[http://www.ocr.org.uk/qualifications/type/qcf/procom/ict\\_pro\\_com\\_l2\\_dip/](http://www.ocr.org.uk/qualifications/type/qcf/procom/ict_pro_com_l2_dip/).

[http://www.ocr.org.uk/qualifications/type/qcf/procom/ispip\\_pro\\_com\\_l3\\_cert/](http://www.ocr.org.uk/qualifications/type/qcf/procom/ispip_pro_com_l3_cert/).

- ・ ICT Professional Competence (PROCOM) Level 2 Diploma
- ・ ICT Systems and Principles for IT Professionals (PROCOM) Level 3 Certificate

また、NVQ ではレベル 2 でも履修に 1 年必要であったが、QCF では最小サイズの Award (初級) では、クレジットが 1 点から 12 点以内で資格とみなされる。クレジット 1 点の予想平均学習時間が 10 時間であることから、1 日で資格授与が可能になる。例えば既にふれた環境衛生協会が授与する食品衛生資格 Award レベル 2 (CIEH Level 2 Award in Food Safety in Catering) は 1 日のトレーニングコースを受けて選択方式のテストで合格すれば資格を取ることができる。

一方この特徴は、専門性の高い職務にある者が短時間で必要な知識を得て資格を取ることができるという利点にもなる。

QCF では利用者が取得した資格の記録は資格授与機関のデータベースに保存され、利用者個人に学習者認識番号 (Unique Learner Number: ULN) が給付される。現在は 14-19 歳のみ対象に実施されている。この制度は、資格取得者自身の他は資格授与機関と訓練関係者が利用するもので、第三者にアクセス権はない。

#### ウ QCF のユニット

QCF のユニットは「貯蓄」しておいて使うことができる。これによって一定期間内であれば場所や資格が違って、また異なった授与機関の資格にも貯蓄してあるクレジットを使って資格を取ることができる。どの資格で集めたクレジットが他のどの資格に使えるかは組み合わせ規定 (Rules of combination) による。この規定の設定管理には Ofqual、産業別技能委員会、資格授与機関が緊密に協力して活動している。

このようにクレジットの「振り込み」を可能にするために、全ての資格授与機関がユニットを共通のテンプレートで作成している。つまり、一つのユニットの学習結果、評価基準、資格のレベル、クレジットの数等の資格構成要素が全て規定された表現と形式で記述されている。また、ユニットはそれ自体にレベル(クレジットの数)が決まっているため資格の性格によっては、授与機関が資格自体より高いレベルのユニットを含む資格を作成することもできる。資格授与機関が作成したユニットは Ofqual のデータベースに保存され、資格授与機関はこのデータベースを利用して新しい資格を作ることができるが、その場合はユニット組み合わせ規定に従わなければならない。

QCF の資格は名称に難易度、平均所要学習時間、資格の内容が示されている。例えば「ICT Professional Competence (PROCOM) Level 2 Diploma」という資格は Level 2 が難易度、Diploma が学習時間(クレジット数)、ICT Professional Competence (PROCOM) が資格の内容を示す。

## エ 資格制度としての QCF の意義

資格とは訓練の結果であるため、より多くの労働者が訓練を受けて資格を取るとは国全体の技能向上につながる。この観点に立って、資格取得希望者と事業主が数多くある資格を正確に理解して比較し、目的に合った資格を取ることが推進するために既存の制度を再構成して設定された制度が QCF である。政府の職業技能政策が低レベルの労働者の支援に焦点を置いていることも QCF 設定の背景のひとつといえる。

イギリスの労働者はキャリア向上のためにはより条件のいい職場へ移っていく傾向が強い。このため、能力の証拠となる資格は必ず必要である。また社内の人事異動でも、より責任のある地位につくためには新たな資格を取ることが条件である場合も多い。このように資格とは労働者、企業主、ひいては国全体の経済成長に重要な要素であるとして随時様々な技能向上施策が発表されている。

## オ NVQ の再編成

QCF は基本的には資格制度の再編成であって、NVQ で開発された訓練と評価の方式自体には直接の影響はない。NVQ の訓練評価制度は現在 QCF に対応して再構成されている。現時点では NVQ として作成された資格は例えば次のように記述される。

- ・ City & Guilds Level 3 (NVQ) Diploma in Hairdressing

Ofqual では資格名に NVQ を使う場合の規則を発表している<sup>36</sup>。

## 2. 能力評価制度の新しい動き：企業内資格の認可

技能向上戦略の一環として政府は企業内資格の認可を推奨している。前項に述べたように、資格はイギリスの労働者にとってはキャリア向上に欠かせないものである。また、低技能労働者にとっては、資格を持つことが少しでも良い職につく可能性に直結している。このため社内訓練で公認資格を授与する企業には意欲のある人材が集まることになる。また社内訓練の質が企業自体の質を象徴しているとも見られる。このような背景の中で企業内訓練に公認資格としての認可を受ける企業が増えている。また、前項でみたように、新しい資格制度である QCF は、必要な資格を短期間で訓練することができることもこの傾向が増えている理由である。

企業内資格に認可を受けるには三つの方法がある。

- ・ 企業自体が資格授与機関として Ofqual に認可される
- ・ 資格授与機関と協力し、専用の資格を作成し授与する。
- ・ 専門家協会、産業別技能委員会、訓練プロバイダー等の組織と協力して専用の資格を作成し授与する。

<sup>36</sup> <http://www.ofqual.gov.uk/files/2008-08-28-operating-rules-for-using-nvq-in-qcf-qualification-title.pdf>.

BIS では事業主向けのオンラインサポート **Business Link** で企業内資格認可の過程について説明している<sup>37</sup>。

### 3. 欧州資格枠組み (EQF)

EQF は、事業主や労働者が欧州各国の資格 (高等教育資格を含む) のレベルを正確にまた容易に比較できるように設定された枠組みである。これは労働者の欧州内移動を容易にして産業界が必要な人材を確保しやすくすると同時に、労働者が柔軟な制度で質の高い継続教育を受けやすくすることを目的としている。したがって EQF は基本的には概念であって実際に規制が伴う制度ではない。EQF と各国の資格制度の関係については次のように説明できる。

- ・ EQF が現在各国で実施されている資格制度に代わって使われたり、EQF に沿って部分的な変更が必要になることはない。
- ・ EQF 指定の資格を制度に加えたり、特定の資質を現存の資格に加える必要はない。
- ・ 国内の資格を EQF の枠組みで表示する必要はない。
- ・ EQF には監査機能はない。また EQF では資格は授与しない。
- ・ EQF の加盟は各国の自由意思による。

欧州委員会の要請で欧州連盟加盟国は EQF コーディネーション・ポイント (National Coordination Point: NCP) を設定している。EQF に関する活動は全て NCP を通して行われ、イギリスでは Ofqual が NCP の役割を果たす。

図表 1-31 EQF / QCF レベル比較

EQF	QCF	EHEA (Bologna)
8	8	3 <sup>rd</sup> cycle
7	7	2 <sup>nd</sup> cycle
6	6	1 <sup>st</sup> cycle
5	5/4	Short Cycle
4	3	
3	2	
2	1	
1	E3 (導入)	
	E2	
	E1	

EHEA: 欧州高等教育圏 (第 1 節、1(4)イ参照)

3rd cycle 博士課程、2nd cycle 修士課程、1st cycle 学士課程、Short Cycle 短期コース

イギリス国内での EQF 関係のフォーラム開催は UK 欧州職業教育訓練コーディネーション・グループ (UK European Co-ordination Group for VET<sup>38</sup>) が責任を持つ。

<sup>37</sup> <http://www.bis.gov.uk/Policies/further-education-skills/vocational-qualifications/interactive-guide>.

<sup>38</sup> VET\*: Vocational Education and Training.

<http://www.ofqual.gov.uk/qualifications-assessments/eqf>.